

監督●アレックス・グラスホフ/小谷承靖
製作●円谷皐/アーサー・ランキンJR
特撮監督●佐川和夫
音楽●モーリー・ローズ/広瀬健次郎
主題歌/ナンシー・ウィルソン
(東芝EMIレコード)

リチャード・ブーン
ジョン・バン・アーク
スチーブ・キーツ
ルーサー・ラックリー
関谷ますみ

極底探険船 THE LAST DINOSAUR ポラボーラ

《最後の恐竜》をもとめて…人類史上最大のSFハンティングが始まった!

カラー作品●日米合作映画●東宝東和提供



■9月10日(金)よりロードショー

おとくな特別観賞券900円(一般1200円の処)劇場窓口にて好評発売中!

丸の内東宝 (211)
6088

極底探険船

THE LAST DINOSAUR

カラー作品 ● 日米合作映画

TOWA 東宝東和提供

ポラーポラ

★爆発したSFブーム / 待望の最新作登場 /

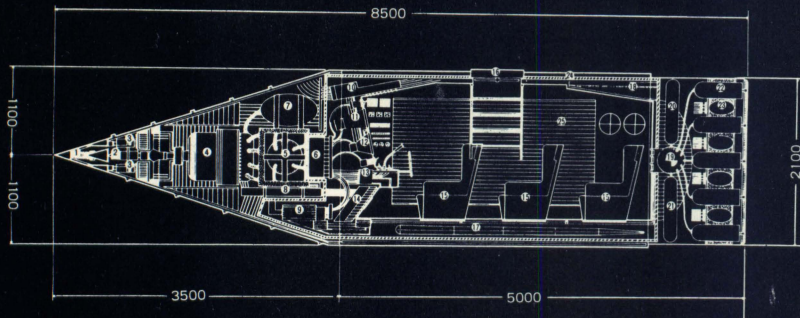
77年から78年にかけて、いよいよ世界を席捲しはじめたSF映画ブーム。いまアメリカでは「スターウォーズ」が「ジョーズ」を抜いて大ヒット中だ。そのなかでついに登場したのがこの映画だ。SFものの原点ともいえる原始怪獣と最新科学兵器を生み出した人間との息づまる死闘を描いたもの。卓抜なアイデアでいま、空前の人気を呼んでいる。新しい映画の魅力を満載した異色のSFアドベンチャー超大作がやってくる!

★構想5年 / 200万ドルの特撮新技術 /

この映画の魅力は何と言っても映画の大半を占める特撮シーンの面白さだ。そのため製作の段階から日本の円谷プロのスタッフを招いた。企画から脚本化まで5年という信じられないほどの準備期間を置いて、世界最高の特撮技術を誇る円谷プロが完璧なまでに仕上げた。特撮費用だけでも200万ドルという破格の巨費、アメリカ映画界の壮大な構想、日本の優秀なスタッフが見事にジョイントされた話題の日米合作映画だ。

★超一流の製作陣が放つ バツグンの面白さ /

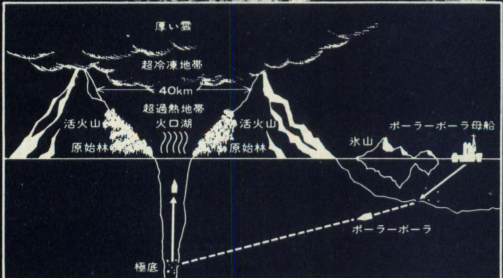
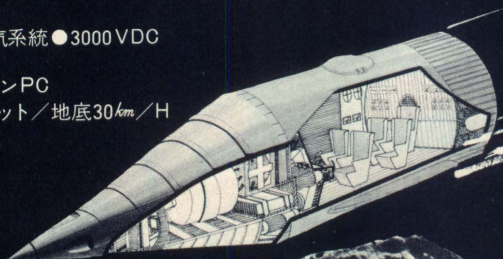
この映画の主人公は“最後の恐竜”、ティラノザウルスとスーパーSFマシン“ポラーポラ号”だ。これらの生みの親とも言える監督はアメリカから新鋭アレックス・グラスホフ、日本からは“若大将シリーズ”の小谷承靖。特撮はベテラン佐川和夫が担当。主演は「アレンジメント」の名優リチャード・ブーン、180人の公募から選ばれた新人関谷ますみ。主題歌を人気シンガー、ナンシー・ウィルソンが歌っている。



ポラーポラ ● 側面図

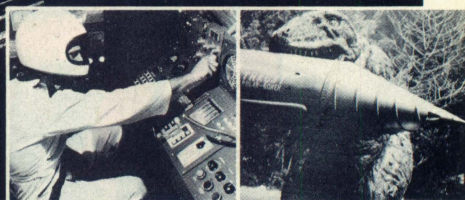
ボディ ● マグネシウム鋼板 / 電気系統 ● 3000VDC
モーター出力 ● 250 HP 3000VDC
原子炉 ● プルトニウム0.5メガトンPC
速度 ● 空中マッハ1.5 / 海中67ノット / 地底30km/H

- ① レーザービーム
- ② 高波砲
- ③ TVカメラ
- ④ モーター
- ⑤ プルトニウム原子炉
- ⑥ 制御板
- ⑦ 重水素
- ⑧ 電気制御板
- ⑨ 動力コンピューター
- ⑩ 無線機
- ⑪ 手向路
- ⑫ TV & レーダー
- ⑬ 操舵機
- ⑭ 配線コンピューター
- ⑮ 椅子
- ⑯ ハッチ
- ⑰ 可変翼
- ⑱ 推進制御板
- ⑲ 燃料混合機
- ⑳ 重水素タンク
- ㉑ 圧縮酸素
- ㉒ ロケット・ブースター
- ㉓ 冷化アンモニウム
- ㉔ 放射能遮断板
- ㉕ 生命維持機(気圧・空調機)



★1億年前の地球が 目の前に現われた /

未来を先取りする世界最高の科学者グループがついに完成させた極底探険船ポラーポラ。切迫した石油危機に対処してつくられた特殊石油探索艇であり、また海底から極底へと突き進むパワフルなアドベンチャー・メカでもある。北極探険中のことだった。海底を掘り、冰山をぶち破るポラーポラは突然、異常な極底変化に遭遇、見知らぬ火口湖に浮上した。そこはまさしく失われた太古の世界だった。



★やっと見つけた! これが“最後の恐竜”だ /

ポラーポラの乗組員はハンターとして冒険家として有名なマステンと科学者たちの5人。マステンたちはこの素晴らしい世界の魅力の虜になった。だが絶滅したはずの恐竜ティラノザウルスがポラーポラを破壊し、どこかへと運んで行ってしまう。彼らの好奇心旺盛な探険旅行は一変して緊迫した恐怖の旅となった。ポラーポラ号はどこか? 原始巨大生物群と人間の知力を尽した闘いが火ぶたを切った!